

好評発売中!



続日本100名城 139 佐柿国吉城

若狭国守護武田氏の重臣粟屋勝久が、弘治2年(1556)に築いたと伝わる。永禄6年(1563)、越前朝倉氏の侵攻を受けるが撃退、以降朝倉氏滅亡までの約10年間、攻め寄せる朝倉勢の攻撃に耐え抜き「難攻不落の城」と呼ばれた。元亀元年(1570)、朝倉攻めのため、織田信長・羽柴秀吉・徳川家康・明智光秀が揃って入城、その後金ヶ崎城から撤退したのは有名である。天正11年(1583)、秀吉の家臣木村常隆介が入り城の石垣化や城下町整備を行ったが、江戸時代初期に廃城となった。

所在地	福井県三方郡美浜町佐柿
別名	国吉城、佐柿城
築城年代	弘治2年(1556)頃
築城者	粟屋勝久
主要城主	粟屋氏、木村氏、堀尾氏、江口氏、浅野氏、松原氏、多賀氏
指定文化財	町指定史跡
現存建造物	—
再建造物	—

全景
御岳山の北西尾根端の通称城山(標高1973m)山頂が本丸で、二ヶ所の虎口を持ち、北西側虎口に鏡石が残るほか、周囲の斜面に部分的に周囲の斜面に石垣を巡らせていた。ここからは、東西を走る街道を見通せ、国境の要衝を抑える重要性が判明する。本丸から北西の尾根筋には連続する曲輪群を配し、中腹には高土塁と喰違虎口を伴う伝二ノ丸(出丸)を置いた。城山南西麓付近の谷筋に開削された段上の平地に、平時の居館が営まれていた。この居館正面にも石垣が積まれている。

(城) ©(公財)日本城郭協会

希望小売価格

350円(税込)

続日本100名城